

Exterior Painting Report

シリコン塗装は 15年後どうなる？ リアル検証レポート



外壁診断・塗装工事
有限会社ユートック
岐阜県海津市南濃町駒野954-9

第1章 15年後の現状確認

前回塗装は、15年前の弱溶剤シリコン2回塗り仕上げです。
まずは、対象建物の概要と施工条件を整理したうえで、
その15年後の状態を確認していきます。

対象建物の概要

所在地	海津市地内
築年数	50年程度
メーカー	ナショナル住宅
屋根材	日本瓦葺
外壁材	ボードおよび見切り鉄部で構成された壁面
塗装履歴	・ 聞き取りで分かる範囲で過去2～3回 ・ 前回塗装：15年前 ・ リシン吹きから吹付タイルへ変更 ・ 上塗りは弱溶剤シリコン2回塗り仕上げ
周辺環境	・ 軟弱地盤ではない ・ 風が強いエリア ・ 近隣に水路、田んぼ等の近接水源なし ・ 鉄道、主幹道路の近隣ではない ・ 周辺には果樹園、畑があり、農薬の影響は多少考えられる

次ページより、各面の状態をそのままご覧ください。

各面の確認写真



南面

確認された主な症状：チョーキング
サビ・コケ
ひび割れ



北面

確認された主な症状：チョーキング
ひび割れ



東面

確認された主な症状：チョーキング
ひび割れ



西面

確認された主な症状：チョーキング
ひび割れ

チョーキングの劣化状況

【南面】



【北面】



チョーキングの比較：左が南面・右が北面のチョーキングの状態です。南面の方が若干白っぽく見えますが、大きな差は見受けられません。

【南面】



【西面】



チョーキングの比較：左が南面・右が西面のチョーキングの状態です。元は同じ色ですが、こちらは顕著に差が出ています。

サビ・ひび割れの劣化状況

【南面洗浄前】



【南面洗浄後】



サビの進行状況：南面玄関の上の庇です。・左が洗浄前・右が洗浄後です。チョーキングもひどい場所でしたが、それよりも基材が破損するくらい錆が進行していました。

【南面】



【西面】



ひび割れ状況：一番クラックが発生してたのは、南面と西面です。クラック幅はおよそ0.2mm程度・挙動なし。

コケ・木部の劣化状況

【南面ベランダ内】



【北面】



コケの発生：右の南面ベランダ内の壁にコケが発生していました。反対に北面ではコケの発生は見受けられませんでした。

【南面】



【南面】



木部の劣化状況：南面にある破風板および床面です。一部塗膜が剥がれ落ちている個所も見受けられます。

劣化箇所のまとめ

確認できた劣化箇所の一覧を以下にまとめました。

面	劣化現象	発生頻度	確認内容
南面	クラック	中	外壁面に複数確認
	チョーキング	大	外壁全体（特に濃色）顕著
	コケ	中	ベランダ内に確認
	サビ	大	庇に確認⇒破損
	木部劣化	中	全体的に劣化
北面	クラック	小	外壁面に少数確認
	チョーキング	小	外壁全体に確認
東面	クラック	小	外壁面に少数確認
	チョーキング	小	外壁全体に確認
西面	クラック	中	外壁面にまとめて確認
	チョーキング	中	外壁全体に確認

15年後の状態を確認すると、クラック、チョーキング、コケ、サビといった経年劣化の症状が確認されました。

また、それらは建物全体に様に現れるのではなく、面や場所によって確認量に差がありました。

次章ではこの確認結果をもとに見えてきたことを整理します。

第2章 施工者としての所感

1章では、15年後の状態を確認しました。
この章では、その確認結果をふまえて、
前回施工を行った立場から率直に感じたことを整理します。

良かったこと

1. 15年目で塗り替えをご検討いただいたことで、
弱溶剤シリコン塗装の想定耐用年数とも重なり、全体としての
経年劣化は想像より良好でした。
2. 塗膜のめくれが見られなかったことから、前回施工時の
下塗材の選定や施工工程に大きな問題はなく、密着性は
しっかり確保できていたと考えられます。
3. 変退色が目立ちにくい色を使用していたため、外観全体としては
比較的きれいな印象を保っていました。

気になったこと

1. 日当たりの違いによって、チョーキングの進み方には
かなり差が見られました。
2. ひび割れの発生箇所には偏りがあり、建物全体で一様に
進んでいるわけではありませんでした。
3. 木部・鉄部は外壁面よりも劣化の進行が早く、
素材そのものの破損につながっている箇所も確認されました。

所感まとめ

15年後の状態を確認すると、弱溶剤シリコンでも十分に役割を果たしていた部分がある一方で、面や部位によっては見過ごせない変化も確認されました。

全体としては想像より良好でしたが、日当たりによる差や、ひび割れの偏り、木部・鉄部の進行の早さなど、一律には評価できない点もありました。

今回の確認を通して、塗料の種類だけで全体を判断するのではなく、どこにどのような症状が出ているのかを見ていく必要があるとあらためて感じました。

第3章 今回該当したデッドラインの確認

無料レポート第1弾「外壁塗装の判断材料レポート」では、劣化判断の目安として6つのデッドラインを整理しました。今回の建物で確認された症状をその6項目に照らすと、主に④金属部材腐食進行、⑤水分滞留部位の劣化、⑥西面等の強日射劣化に該当する状態が確認されました。この章では、その照合結果を整理します。

デッドライン6項目

- ①シーリングの硬化・割れ・外壁反り
- ②ALC深部クラック
- ③屋根基材摩耗
- ④金属部材腐食進行
- ⑤水分滞留部位の劣化
- ⑥西面等の強日射劣化

今回の建物で該当した項目

- ④ 金属部材腐食進行
- ⑤ 水分滞留部位の劣化
- ⑥ 西面等の強日射劣化

今回確認されたサビ・コケ・チョーキング・ひび割れ・木部劣化は、上記④～⑥のデッドラインに照らして整理することができます。

今回の確認結果との照合

④ 金属部材腐食進行

今回確認された症状

サビ

今回の確認結果

鉄部でサビが進行し、一部は素材破損につながっていた。

照合結果・補足

レッドラインに合致。

特に屋根のない部位や雨掛かりの影響を受けやすい箇所
で進行が早かった。

⑤ 水分滞留部位の劣化

今回確認された症状

コケ / 木部劣化

今回の確認結果

北面全体ではコケは目立たなかったが、
ベランダ内側で確認された。
木部は外壁面より進行が早く、素材の傷みが見られた。

照合結果・補足

一部合致。

単純に北面だから進むのではなく、
湿気がこもりやすく乾きにくい場所で発生していた。
木部は素材そのものが水分の影響を受けやすい。

⑥ 西面等の強日射劣化

今回確認された症状

チヨーキング / ひび割れ

今回の確認結果

日当たりの強い面でチヨーキングの進行が早かった。
ひび割れは、強日射を受けやすい面で多く確認された。

照合結果・補足

デッドラインに合致。
塗膜の劣化しやすさに加え、熱収縮の影響が大きい面でひび割れが発生しやすかったと考えられる。

今回の確認結果から見えてきたこと

今回の建物では、6つのデッドラインのうち、
④金属部材腐食進行、⑤水分滞留部位の劣化、
⑥西面等の強日射劣化に該当する状態が確認されました。

特に、鉄部のサビ進行や日当たりによるチョーキングの差は、
デッドラインの考え方とよく合致していました。
一方で、水分の影響は単純に方角だけでは決まらず、
風通しや湿気のこもりやすさなど、
細かな条件の違いも影響していると考えられました。

こうした確認結果から、塗料を単純に比較するのではなく、
お家ごとの条件に合わせた考え方が必要だと感じました。
次章では、その考え方をもとに、
今ならどのような対策を組み立てるかを整理します。

第4章 今ならこう考える

15年後の状態を見て、施工当時と今とでは、
建物の見方が変わっていることをあらためて感じました。
この章では、今回の確認結果をふまえて、
今ならどのような考え方でお家に合った対策を組み立てるかを
整理します。

今なら先に見ること

今回の15年後の状態を見て、今なら次の点を先に確認します。

1. どの面に強い日射が当たり、劣化の進み方に差が出ているか
2. 水分が残りやすい場所、乾きにくい場所がどこか
3. 鉄部や木部など、外壁面より先に傷みやすい素材がどこにあるか
4. 劣化症状が広がっているのか、特定の条件に偏っているのか
5. 塗料の種類より先に、どこにどのような役割を持たせるべきか

今は、塗料の名前や価格から入るのではなく、
どこに日射差があり、どこに水分が残り、
どの素材が先に傷むかを整理したうえで、
そのお家に合った役割を組み立てるようにしています。

外壁塗装の答えは、お家が教えてくれる

これまで、外壁塗装について必死に勉強し、
多くの現場を見てきました。

今回、15年前に自分で施工したお家を再塗装のタイミングで
見直してみて、あらためて感じたことがあります。

それは、外壁塗装の答えは、
最初からお家が教えてくれていたということです。

お家には、それぞれ傷みやすい場所があります。
立地や日当たり、風通し、湿気のこもりやすさ、
素材の違いによって、劣化の出方も進み方も一件一件異なります。

だからこそ大切なのは、
塗料の名前や価格だけで考えることなく、
お家が出しているサインをどこまで受け止められるかだと
感じました。

たとえ良い塗料を使ったとしても、お家ごとの弱点を補わず、
全体の劣化スピードを整えられなければ、
見えないところから先に傷みが進んでしまいます。

今回の検証を通して、デッドラインの考え方が有効であること、
そして全体の劣化スピードをコントロールすることの大切さを
あらためて学びました。

外壁塗装の本質は、見た目を整えることだけではなく、
メンテナンスサイクルを調整することにある。

私は今、そのように考えています。

このレポートの筆者より

ここまでお読みいただきありがとうございます。

今回の資料は、
自分が15年前に施工したお家を、
再塗装のタイミングで見直して感じたことを整理したものです。

塗料の名前や価格だけでは、
外壁塗装の答えは決まりません。

実際には、お家ごとに傷みやすい場所や、
環境の影響を受けやすい場所があります。

今回の検証を通して、
外壁塗装の判断にはデッドラインの考え方が有効であること、
そして全体の劣化スピードを整えることが大切だと、
あらためて感じました。

もし迷ったときは、
ご自宅の状態を整理するところからでもお手伝いします。

無料診断も行っていますので、
気になる方はお気軽にご相談ください。

決めるのは、いつでもあなたです。

有限会社ユートック
伊藤得廣

1級建築塗装技能士
1級建築施工管理技士
建築仕上げ診断技術者